

あいな

里山公園情報

～国営明石海峡公園神戸地区だより～



トピックス

- 平成19年度 工事の完成状況
- アクションリサーチ & 里山樹林管理講習
- 第6回マネージメントプラン 検討委員会開催

初春のあいさつ

ようやく寒さが緩み、里山のあちこちで春の気配が感じられるようになってきました。今年の冬は、昨年と比べてとても寒く感じた方も多いのではないのでしょうか。

今年の藍那では、雪が舞う日が多く、しばしば積もることがありました。その影響を受けて遅れ気味だった工事も、年度末をむかえて完成に近づいています。

開園は平成24年度を予定しており、まだ先になりますが、少しずつ公園が出来てきている様子を、本年度最後のあいな里山公園情報としてお届けします。

製作・発行

国営明石海峡公園事務 神戸地区現場事務所
〒651-1104
神戸市北区山田町藍那字伝庫14
TEL(078)593-3943 FAX(078)593-3944
E-mail: aina@joy.ocn.ne.jp

藍那の野鳥たち



2008/1/27 里山管理講習④



2008/1/26 里山管理講習③



2008/2/17 AR整備プログラム



2008/2/10 里山管理講習⑥



2008/2/9 里山管理講習⑤



2008/3/9 里山管理講習⑧



2008/3/8 里山管理講習⑦



2008/3/2 ARワークショップ

国営明石海峡公園神戸地区の開園後における運営や整備の方針を検討するマネージメントプラン検討委員会が、2月20日に神戸国際会館で行われました。会議では、平成19年度のアクションリサーチの中間報告として、実施状況及びその成果と課題について報告がされました。また、平成6年に策定した基本計画の修正について話し合われました。社会情勢の変化や、環境アセスメントによる貴重な動植物が確認されるなどの課題が明らかになったことや、課題解決に向けての取り組み等に対して委員の方々から意見をいただきました。さらに、平成20年度から24年度までの公園の整備・管理に関する重点事項や開園計画等を取りまとめ

第6回マネージメントプラン検討委員会開催

「国営公園整備プログラム(案)」についても、同様に委員の方から意見を頂きました。



【出席委員】

- 中瀬勲 人と自然の博物館 副館長
- 赤澤宏樹 兵庫県立大学 講師
- 片岡俊秀 大阪人間科学大学 教授
- 長谷川清弘 明石海峡公園管理センター 所長
- 谷口文章 甲南大学 教授・日本環境教育学会 事務局長
- 堤幸一 京都精華大学 環境建築研究所 副所長
- 橋俊光 兵庫県立大学 環境学 専攻 専攻長

※ 次回の発行は5月初旬頃の予定です

平成19年度 工事の完成状況



今年度は、園路や上下水道管路敷設、下水処理施設等の基盤施設や、開園後に多くの来園者が利用できる建築施設等、多くの工事が行われました。

太陽と緑の道を歩くと、茅葺き屋根の民家「あいな亭」と、その横にある瓦葺き屋根の建物「食堂棟」が最初に目に入ります。

開園した際には、この場所であいな伝統の料理が作られ、里山の風景を眺めながら食事をしていただく場所にしたと考えております。

この場所から見える棚田は、市民活動によって米づくりが行われているだけでなく、周囲の法面にはこの地に昔から生息していた野草を復活させようと定植作業が行われています。

炭窯の前から棚田を見下ろすと、工事によって建てられた施設と、市民によって整備された樹林や田畑が

うまく融合して、伝統的な里山空間が再現されてきている事が見ていただけると思います。

あいな亭からこの棚田を挟んだ反対側には、最初に



食堂棟(左)とあいな亭(右)

います。太陽と緑の道からは、見えない位置になります。将来の市民活動の拠点をイメージしてつくられた、クラブハウスや活動用の倉庫2棟も、順調に仕上がってきています。



トイレ棟



クラブハウス(左)と倉庫棟(中央、右)

横に長く、2階建ての造りになっているのが「クラブハウス」です。この建物は、活動団体が会議に使用したり、プログラムの準備のために作業ができる棟になります。

「倉庫棟」も里山の風景に馴染むように、1棟は瓦葺き屋根で、もう1棟は茅葺き屋根の古民家風になっています。茅葺きの倉庫は壁にわらを圧縮したストロ―ペイルを使用しており、天然素材をふんだんに使用した造りになっています。

以前からある交流民家と長屋門の近くに、「総合案内所」が出来上がっています。こちらは、将来公園を訪れた方に公園の魅力を紹介したり、当日に行われているプログラムを紹介する施設として整備が行われました。

市民交流民家、長屋門、トイレ棟、そして総合案内所と、「農家のにわ」も段々と賑やかになってきました。



総合案内所

相談ヶ辻から、木見川沿いに沿って広がる緩やかな棚田は、耕作楽園地区として、四季折々の野菜や穀物が栽培される地区になる予定です。

この地区は、市民による公園づくりのモデルとして行っているアクションリサーチの重点地区であり、来年度以降の市民の活躍が大いに期待される地区でもあります。

また、今まで市民活動の

拠点として利用されてきた相談ヶ辻の家は、この耕作楽園地区に移築する計画になっています。将来は散策ルートや子ども達が農に触れる事の出来る地区としての機能も期待されています。



耕作楽園地区